



左: 百頭たけし《無題》2024
右: 本多周《獣》2022 キャンバスに油彩、アクリル 970mm×1455mm

幽界通信

2024年11月1日(金) – 11月22日(金)

出展作家: 百頭たけし / 本多周

CASHIでは11月1日(金)から11月22日(金)まで、百頭たけしと本多周による二人展「幽界通信」を開催いたします。

一説によると、「幽界」とは生と死の間にある世界のことで、人が亡くなったのち、一時的に滞在する場所とされています。それに対して「霊界」とは、「幽界」を過ぎた先にある、死者たちが永遠に過ごす場所を指し、「霊界」の中には善霊がいる「天界」と悪霊がいる「地獄」という2つの場所が存在するとされています。

百頭・本多は、共に日本の郊外に存在する、ある種怪異的な要素を感じる風景を切り取る作家です。展覧会タイトル「幽界通信」は、彼らの作品が、まるで不定期に届く幽界からの便りを、絵画や写真という形に留め、我々に見せているように感じられることに由来しています。

百頭は、1980年群馬生まれの作家で、自身が「ジャンクヤード」と呼ぶ、郊外にある産業廃棄物が積まれた風景をリサーチし、撮影します。主な展示に個展「とれん」(2023、Token Art Center、東京)、VOCA展2018「現代美術の展望 – 新しい平面の作家たち」(2018、上野の森美術館、東京)、「不純物と免疫」(2017、トーキョーアーツアンドスペース本郷、東京)などがあります。

本多は、1997年埼玉県生まれの作家で、幼少期より慣れ親しんできた妖怪の存在を優しく肯定し、まなざしの中で妖怪の気配を見つけ描き出す作家です。第72回東京藝術大学修了作品展(2024、東京藝術大学、東京)では、修士在学中に描き上げた妖怪をモチーフにした作品群で注目を集めました。

最後に、同名の詩集『幽界通信』(町田志津子著、時間社、1954年出版)より、「鼠群」を引用します。

「鼠群」

古い街はとりはらわれた
穴ぐらの闇をつかむ鉄骨
人口の曠野にポツネンのこされた
デパートのてっぺんに

黄色い月があがる

ふるさとを追われた
鼠群がゾロゾロ昇天してゆく

頭界と幽界が交錯する独自の世界観を、ぜひご高覧ください。

百頭たけし Takeshi HYAKUTOU

1980年 群馬県生まれ

個展

2023年「と-れん」Token Art Center、東京

2017年「カイポンする / 我蓋朋」コ本や honkbooks、東京 / 芸宿、石川

主なグループ展

2022年「野山のなげき」Room_412、東京

2018年「VOCA2018 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館、東京

2017年「Seize the Uncertain Day - ふたしかなその日」東京藝術大学美術館陳列館、東京

2017年「不純物と免疫」トーキョーアーツアンドスペース本郷、東京



百頭たけし《無題》2024

本多周 Shu HONDA

1997年 埼玉県生まれ

2022年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業

2024年 東京藝術大学院美術研究科 油画技法材料研究室 修了

主なグループ展

2024年 第5回「絵画の筑波賞」展 アーロンギャラリー、東京

2024年 第72回 東京藝術大学卒業・修了作品展 東京藝術大学、東京

2022年 第70回 東京藝術大学卒業・修了作品展 東京藝術大学、東京

2020年 二人展「もうてん」zakura、東京

2019年 Group exhibition “Portrait” YUGA Gallery、東京



本多周《眼光》キャンバスに油彩、アクリル 1620mm×970mm 2022

CASHI

本件に関するお問い合わせ:info@cashi.jp

〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-6-12-1F tel : 03-5825-4703 fax : 03-5825-4704

開廊時間 : 水～土 12:00～18:00

JR浅草橋駅西口より徒歩5分

JR浅草橋駅東口・都営浅草線浅草橋駅A2出口より徒歩10分

JR秋葉原駅昭和通り口・東京メトロ日比谷線秋葉原駅1番出口より徒歩10分

